



年 組 名前

道新 ワークシート

次代の
モノサシ第2部
考察・福岡経済

加工と輸出 両輪で成果

福岡市は、地方都市の中でも「稼ぐ力」が強いまちだ。人口規模や第3次産業主体の構造は札幌市とそれほど変わらないが、企業などが1年間の生産活動で新たに生み出した稼ぎ（付加価値額）は労働者1人当たりで、札幌より70万円以上も高い＝表参照＝。なぜこんなに差があるのか。

福岡市中心部から車で30分のベッドタウン、福岡県久山町。高級だしパック「茅乃舎」ブランドで知られる久原本家グループ本社に近い直営店を訪れると、一角に所狭しと並ぶ「北海道豚丼のたれ」―北海道かにだし―などの商品を観光客らが次々と手に取った。

※単位は万円。2016年
経済センサスより抜粋

産業内訳	札幌	福岡
全産業 (全国20政令市の順位)	491 (14位)	566 (6位)
卸売業、小売業	565	634
医療、福祉	448	378
宿泊業、飲食業	217	237
建設業	618	727
運輸業、郵便業	396	532
教育、学習支援業	314	429
製造業	438	502
情報通信業	770	904

札幌、福岡両市の主な産業の付加価値額（労働者1人当たり）

稼ぐ力

高付加価値化

製造しているのは201

9年に設立した子会社「北海道アイ」（札幌）。道産原料を使い、全商品名に「北海道」を冠した。久原本家グループの河辺哲司社長（66）は「道内にはまだまだ埋もれた食材がある。高付加価値の商品開発を行い世界へ発信したい」とし、米国や香港、ベトナムなどの自社海外拠点を生かして販路を広げる構想を描く。

素材の付加価値を高めて輸出を拡大する。道内産業の長年の課題を、両方も解決する力を久原本家は持つ。道産タラコから辛子めんたいこを生んだような「商品開発・加工力」が福岡の稼ぐ力の象徴例として語られがちだが、取材では、久原本家のように県外・海

外への「市場開拓力」との両輪で成果を上げる企業が多いことを実感した。

北海学園大の高原一隆名誉教授（74）＝地域経済学＝は「アジアに近い土地柄から、抵抗感なく海外に打って出る『攻めの気質』が福岡企業には目立つ」と指摘。九州と北海道の市場規模や地域のコンパクトさなど、地の利を差し引いても稼ぐ力は強いとみる。

海外に拠点開設や輸出を行う企業の割合は、直近の19年で福岡市が21.4%と、札幌市の11.4%を上回る（帝国データバンク調べ）。プレナスは06年から定食店「やよい軒」を出店し、タイや台湾など8カ国・地域に約250店展開。ラーメンの一蘭は台湾や米国に7店ある。中小企業の進出率も札幌のほぼ倍だ。



久原本家総本店の店内に設置された「北海道アイ」の商品コーナー＝昨年12月15日、福岡県久山町（富田茂樹撮影）

2022年1月24日（月）朝刊 全道版 2ページ（記事は再編集しています）

①「札幌、福岡両市の主な産業の付加価値額」の表から読み取れることを、記事を参考に書きましょう。

②素材の付加価値を高めて輸出を拡大するためにはどのようなことが必要か、記事を参考に書きましょう。